

平成 29 年度 第 2 回学部評価会議報告

■概要

日時：平成 30 年 2 月 26 日(月) 19 : 00～

場所：Galleria 商.Tokyo(丸の内サテライトキャンパス)

■学部評価会議 参加者

池田 博義 氏

マイツグループ 代表取締役統括社長

※以下、五十音順

浅川 潤一 氏

千葉商科大学付属高校 教頭

親泊 寛昌 氏

東京都立千早高等学校ビジネスコミュニケーション科 ビジネス科 主幹教諭

五島 勝也 氏

バニラ・エア株式会社 代表取締役社長

須田 秀伸 氏

西武台千葉中学校・高等学校 校長

高田 裕巳 氏

株式会社クイック リクルーティング事業本部 東京営業部

土田 博幸 氏

内外日東株式会社 管理部 人事研修チーム チーム長

宮内 史絵 氏

株式会社フィナンシャル・エージェンシー 業務本部 業務ソリューション部 部長

■本学関係者

宮崎 緑 国際教養学部 学部長

柏木 将宏 教授

鈴木 恒雄 教授

高橋 百合子 教授

山田 武 教授

渡辺 恭人 教授

太田 昌志 准教授

常見 陽平 専任講師

本学関係者より、学部の教育成果について報告を行い、参加者より学部教育について、下記のご質問、ご意見やご助言をいただきました。国際教養学部では、この度いただいたコメントを教授会で共有し、今後の教育活動に活かしていきます。

➤留学から帰国して、これからの進路に向けて、カリキュラム上、取り組んでいることはあるか。

(国際教養学部より)

国際教養学部では2年次「海外短期研修（短期留学）」から帰国後、就活キックオフを行い、これからのように学生生活を送るのかを学生や教職員で共有して、モチベーションにつなげた。3年次では、2・3クォーター「国際教養学」科目の中でキャリア教育を行っている。また、担当教員が複数回、学生全員と面談を行っている。

学生に対して「海外短期研修（短期留学）」の体験と職業のつながりを見出させ、いかに就職活動に向けていくかが重要であると考えている。

➤学生のインターンシップ参加状況はどうか、また就活でどのような企業を目指しているのか

(国際教養学部より)

インターンシップの参加状況は夏休み終了時点で約72.5%、参加企業数は平均1.5社であった。現時点では、広い意味でのサービス業（観光、旅行業を含む）やメディア関係を目指している学生が多い。

➤（新卒採用人事に関わっていると）学生は働くことを特別なことと捉え、就職活動では日常で行わないことを行っていると感じる。学生が高橋教授の考えるKISS（Keep It Short & Simple）を実行できれば、大学の授業、就職活動、社会でも上手いくと感じる。また、先日、貴学の企業説明会に参加させていただいたが、全体的におとなしい印象を受けたため、もっと自信をもって就職活動してもらいたい。

➤国際教養学部はグローバルな視点で、課題を見つけて解決していく、世の中に貢献できる人材を輩出していく学部で、基本は英語だと考える。留学だけではなく、学内には外国語や異文化を楽しめるインターナショナルスクエアもあり、語学学習の環境が整っていると感じる。これから会社の中がグローバルな環境の会社も増えていくと考えられるが、その場合共通の言語は英語であり、コミュニケーション能力も求められるため、語学力やコミュニケーション力を向上させればさらに仕事もうまくできる。国際教養学部は留学やインターンシップなどカリキュラムも整っているため、学生は大学にいる間に成功体験を増やしてほしい。

➤学生時代に「気付く力」を養ってほしい。見聞きするだけでなく、疑問を持つことが大切。大学では、“Why?”を連続させるようなワーキングを行うと良いのではないかと。

➤生徒に国際教養学部を選択した理由を聞いてみたところ、入学直後に海外研修を実施する、また英語だけではなく、総合的な国際人を育成するところに魅力を感じたようである。

➤年々、国際教養学部の学生の TOEIC スコアが上がっていると伺い、入学者の質も上がってきているのだろうと感じる。質の上ってきた学生をどう指導していくかが、今後の国際教養学部にとって重要なポイントだと考える。まず入学直後から海外研修を経験させて、後から理論付けを行う教育に特徴があり、3年生までに英語で交渉、プレゼンやディスカッションなどの学習も行っていると思うが、4年生の最後の1年間でどのような人材に仕上げていくのか楽しみである。

➤本校でもモチベーションを維持させることが課題だと感じている。特にイベントなどが終わるとモチベーションが下がりやすいため、イベントなどで体験したことを誰かに教える場を設ける仕組み作りを行っており、重要だと考えている。

また、国際教養学部には教職課程はないと思うが、海外でいろいろ経験をした人が先生になり教えることも重要だと感じるため、次のカリキュラムに向けて考えていくことも必要だろう。

➤世界の情勢が目まぐるしく変わる中で、一つのことで各国のメディアによって伝え方が全く異なるため、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、地球人としてどう生きていくかを考えられる人材を育成してほしい。

以上